2017 年度採用分（採用期間 2017 年 4 月―2019 年 3 月）

日本科学哲学会・石本基金　「若手研究助成」申請書

注意：　本書式の末尾に掲載されている「記入要領」を熟読の上、作成すること。

（受付番号　No.　　）

2016 年 12 月 20 日現在

1. 研究課題の名称			(1). 現会員 (2). 入会申込済み
3. 現在の所属、または身分			4. 生年月日・年齢 年　月　日 才
5. 氏　名		6. 現在または最後の研究指導者名	
7.（最初の）大学入学以来の学歴、及び職歴			
8. 現住所・電話番号・E-mail アドレス	〒 Phone： E-mail：		
9.審査結果通知先 （8.と異なる場合のみ）			

10. 本研究課題の要旨（400 字程度）
11. 本研究課題を構想するに到った経緯・理由・目的
12. 本研究課題の特色・意義・発展性

13. 本研究課題に関する学界での研究状況（先行研究、関連研究、等）、及び、それらについての申請者の所見
14. 本課題に関する申請者のこれまでの準備状況、将来的な研究計画、及び、その中での 2017-18 年度の位置づけ
15. 研究業績（本研究課題との結びつきに関わりなく、必ず修士論文から書き始め、申請者から見て重要な業績をすべて挙げること）

日本科学哲学会・石本基金「若手研究助成」申請書　記入要領

2016 年 12 月 6 日
日本科学哲学会会長　戸田山　和久

本申請書は、すべて、2016 年 12 月 20 日現在の時点で記入して下さい。各項目については、以下の要領の通りとします。なお、応募資格については、Web サイト上の「若手研究助成の公募について」を参照し、各自でよく確認するようお願い致します。

1. **研究課題の名称**：　字数制限なし。テクニカル・タームなどは、適宜、原語を挿入してよい。
2. **会員資格**：　（1）（2）のうち当てはまる項目を残し、もう一方は削除すること。
3. **現在の所属、または身分**: 大学院等に在学している場合は、その名称（課程、コース名等まで）及び学年を書き、大学院を修了または退学し非常勤職に就いている場合は、その機関の名称を書いた上で、非常勤であることを明記すること。どちらにも該当しない場合は、「無職」とする。
4. **現在または最後の指導者名**：　大学院等で、現在指導を受けている（または最後に受けた）研究者の、現在の所属機関と氏名。
5. **（最初の）大学入学以来の学歴、及び職歴**：　最初に入った大学から、現在在籍している（最後に在籍した）大学院等までを記し、更に、非常勤職を経験している者は、これまでの職歴も書く。特に、既に修了・退学している者は、最後の博士後期課程（に相当する課程）に入学して以来、現在までの期間が 10 年以内であることが明瞭となるよう記述すること。
6. **本研究課題の要旨**：　400 字程度で、研究課題の中身を簡潔・明瞭に説明すること。
7. **本研究課題を構想するに至った経緯・理由・目的**：　なぜ構想するに至ったかの背景、動機が明瞭となるよう記すこと。字数は問わないが、冗長になりすぎないよう配慮する（本研究の説明にとってこの項目は重要でないと考えるならば、ごく簡略でも可）。
8. **本研究課題の特色・意義・発展性**：　本申請書の審査において中心となる項目なので、よく整った記述を用意すること。字数は問わないが、冗長になりすぎないよう配慮する。
9. **本研究課題に関する学界での研究状況（先行研究、関連研究、等）、及び、それらについての申請者の所見**：　参考文献など列挙してもよいが、それらがどういう点で本研究課題に関係するのかが明瞭となるように、適宜所見を補うこと。字数は問わないが、冗長になりすぎないよう配慮する（本研究の説明にとってこの項目は重要でないと考えるならば、ごく簡略でも可）。
10. **本課題に関する申請者のこれまでの準備状況、将来的な研究計画、及び、その中での 2017-18 年度の位置づけ**：　準備状況については、既発表の論文等はなくともよいが、申請者が本課題を担うための準備を整えつつあることが明瞭となるよう記述すること。また将来的な計画は、年度毎の詳細なもの等は必要ないが、研究課題を遂行する上でどのような作業がどのような手順で必要となるかを整理し、2017 年度及び 2018 年度の 2 年間で、そうした作業のうちどの程度の範囲の達成を目指すのかを説明すること。いずれも字数は問わないが、冗長になりすぎないよう配慮する。
11. **研究業績**：　必ずしも全業績をリストしなくともよいが、ここまでの項目において言及した業績は必ず含める。また、本研究課題との内容的結びつきの存否に関わりなく、従来どのような主題を研究してきたかが明らかとなるように、必ず修士論文の題目から書き始め、また、申請者にとって重要な業績はすべて記すこと。

以　上